

神奈川県立麻生支援学校における学校運営協議会開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催した。

審 議 会 等 名 称	神奈川県立麻生支援学校における学校運営協議会		
開 催 日 時	令和7年5月27日(火)		
開 催 場 所	神奈川県立麻生支援学校会議室		
(役 職 名) 出 席 者	(会長) 新井委員 (副会長)岡本委員 久保田委員、品川委員、谷委員、大崎委員、青柳委員、佐口委員、鈴木委員 <学校職員> (副校長) 山岸、(教頭) 石上、田部 (事務長) 江藤、(総括教諭) 栗澤、風間、鈴木、土肥、渡邊、有年、小川、堀井 <文部科学省 CS マイスター>横澤		
欠 席 者	有賀委員		
次回開催予定日	令和7年10月28日(火) 予定		
問 合 せ 先	所属名：麻生支援学校、担当者名：石上 卓矢 電話番号：044-980-4855 ファックス番号：044-986-2517		
下 欄 に 掲 載 す る も の	・ 議事録	議事概要とした理由	
会議経過	1 開会 2 挨拶 (麻生支援学校 鈴木校長) 3 委員自己紹介 名簿順に紹介・挨拶 4 学校職員自己紹介 名簿順に挨拶 5 会長及び副会長の選任 会長：新井委員 副会長：岡本委員 6 <学校評価部会> (1) 山岸副校長より資料に沿って説明。学校教育目標では学校目標の5つの視点に対して対応する形で設定をしている。課題として指導方法、教材教具、タブレット端末の活用、児童生徒の地域との関わりにより社会性を育てる、職員の児童・生徒へのていねいな関わり、災害時における関係機関との協力があげられた。これらの内容を踏まえて4年間の学校目標を設定した。教育課程、学校運営組織、学校評価実施結果を説明。令和7年度の学校目標については令和6年度の目標について見直し、作成したところが多い。作成のポイントはできるだけ具体的な内容、外部の方がわかりやすいようにしたと説明。 (2) (1) について御意見・御質問 ○保護者アンケートの結果は5割いかなかった。なぜそういう結果になったのか検討が必要。昨年度、生の声を聞いたほうが良いという意見があった。肯定的評価がほとんどで厳しい評価は少なかったことが印象		

に残っている。保護者は都度話ができるから安心していているという意見があった。アンケート結果で評価していくのであればどのくらいあればよいのか。見る視点として考えていただきたい。

- 学校評価に対するアンケートについては半分くらい。学校としての周知の仕方を考えていきたい。直接話しをする機会は大切にしていきたい。
- 進路支援について。グループホーム見学の実施数を知りたい。弊社では社員が学校に出向いてプレゼンしている。機会があれば麻生支援学校での協力ができる。
- A部門の情報が少ない。PTAと一緒にA部門に特化した見学会を行う予定。卒業生の話の計画はまだ進んでいないが、話を聞く会を計画した際にはご協力をお願いしたい。
- 「すぐにわかった」が麻生の特徴だと思うが。「すぐに」とはどのようなことを言っているのか。また、個別教育計画の実施状況はどうなっているのか。管理職が目を通してしているのか。
- 「すぐに」は具体的な目標を示す言葉。わかりやすい内容にしていくとしている。
- 個別教育計画は全期制となり、4、5月でしっかりとアセスメントを取り、クラス学年で作成し、学年チーフ、学部長が確認、GL 確認、管理職も確認している。

学校教育計画等について承認

7 <切れ目ない支援部会>

- (1)「つながる・ひろがるあさおプロジェクト」の5つの視点について学校として進めていくこと等を総括教諭より説明。
- (2)意見交換(○委員、●学校関係者)
 - SNS に関して子どもとともにルールを作ることが推奨されているがこちらはどのようにしているのか。夏休みには個人にあった課題に取り組み、提出も行うとのこと。そもそも SNS の社会的な問題をどのようにサポートしているのかを教えてほしい。
 - 高等部ではルール、マナーの授業の中で SNS の学習をしている。7月には企業の方を招いて研修を行う。子どもたちが安全に使えるよう高等部3年を対象として行う予定である。
 - SNS からいじめに発展することがある。これによって起こりえる様々なことが気になっている。
 - 分教室では SNS トラブルは多い。LINE、動画の使用について禁止はしていない。相手の立場になって考えるという学習を学期に1回程度行ってきた。相手のことを考えるという指導をしている。
 - 田園調布大学で麻生の児童・生徒の作品を展示していることも地域に向けての発信になっている。地域協働に記載がないが、たくさんのかかわりがあると思う。
 - 進路指導・支援の視点でいいと思っているのだが成功体験は大事。重視しているところがよい。サタデーセミナーが行われるのがよい。
 - 今後、気が付いたことがあればご意見をいただきたい。

8 <学校設置部会>

① スクールバス地域救援部会

*令和6年度の成果等

- ・パートナーシップ協定について
元石川高校とは締結済み、田園調布大とは協議中
→福祉施設(卒業生の進路先など)との連携、多摩区を含めいろいろな地域に広げていく。福祉施設にも声かけができるとよい。
- ・災害時における協力依頼のステッカーについて
今年度作成予定
→事前に掲示板等で伝えられるとよい。麻生区に10か所ある子ども

	<p>文化センターにポスター掲示等で事前周知。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GPS の施行（二次元コードを読み込む。保護者も職員もわかる） →SB ポイントに放デイが迎えに来ることもある。放デイと保護者の連絡が基本だが、円滑な運営のためにも検討していく必要がある。 ・SB 内に水や紙パンツ等を補充 →紙パンツに違和感のある児童生徒もいるのでポータブルトイレなどの対応を検討。 <p>*その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SB の介助員が不足している状況。介助員が不在だとバスは運行しないのか。→教員が添乗して対応をしている。 ・災害時は BP に長時間かけて届けるではなく学校に戻る選択肢も考える。 ・災害対策について現在漠然としている。ある程度想像できる災害を例にとって対応を SB 以外も考える必要がある。 ・災害時に必要なのはトイレ。トイレがきれいだと場の環境が良好になる。 <p>②ていねいな関わりのスタンダード</p> <p>*教員の意識を高めたい。話し合いの雰囲気についてご意見があれば伺いたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業も同じ。CS（社員）ファースト活動ということに取り組んでいる。一人一人の幸せのイメージに近づけたい。児童・生徒を第一にという視点を持つ。 ・授業を録画し、面談時に見せながら話し合いを進めてもよいか。何が課題か明確になる。教員の会議にも活用してはどうか。 ・面談で写真や動画の共有はしている。本人への対応の情報共有を複数の教員で行うことや学部をこえても引き継いでいくことが大切。 ・ていねいな関わりスタンダードをチェックリストにしない。よいことを中心に内容をひろいあげ、話し合えるとよい。 <p>9 会長の言葉</p> <p>実際に形になっていてよい。様々なアイディアが出てきてよかった。成果が出ていると感じた。</p> <p>10 校長の言葉</p> <p>活発な協議ありがとうございました。「災害対策」、「ていねいな関わり」、「子どもを知ること」が大事で、子どもが中心で話し合いが行われていた。つながる・ひろがるためには互いを知ることが大切。麻生支援学校の授業や SB の知られてない部分が多いと感じた。地域、家庭、関係機関などへの広報活動を充実させていこうことが必要。子供たちのことをしっかり知り、実践・振り返り・バージョンアップを繰り返し、共有しあいながら教育活動の充実を図っていきたい。子どもたちの自立と社会参加につながるよう種をまいていきたい。ご協力をお願いしたい。</p> <p>11 閉会</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
--	--